

- 1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう（教材 「やまなし」・「イーハトーヴの夢」）

- 2 目 標
 - 場面の情景や独特の表現に興味をもち、想像豊かに読もうとしたり、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしたりする。 （国語への関心・意欲・態度）
 - 情景を表現した文章の美しさや登場人物の心情を叙述に即して想像しながら読むことができる。 （読むこと）
 - 読み取った情景についての自分の考えや主題についての考えを自分の言葉で文章に表現することができる。 （書くこと）
 - 比喩的な表現を手掛かりにして読み取った情景や登場人物の心情、主題について話し合い、考えを深めることができる。 （話すこと・聞くこと）

- 3 指導計画（10時間）
 - 第一次 「やまなし」を読み、読みのめあてをもつ。……………（2時間）
 - 第二次 二枚の幻灯を想像豊かに読み味わう。……………（5時間）
 - 第1時 「五月」の情景を読み、話し合う。
 - 第2時 「五月」における「かわせみ」の存在について話し合う。
 - 第3時 「十二月」の情景を読み、話し合う。
 - 第4時 「十二月」における「やまなし」の存在について話し合う。（本時）
 - 第5時 「五月」と「十二月」を対比させて、描かれている情景や感じたことを交流する。
 - 第三次 資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生き方や考え方を話し合ったりすることで「やまなし」の主題をとらえる。……………（3時間）

- 4 指導上の立場
 - (1) 単元について

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、資料として宮沢賢治を深く知るための伝記「イーハトーヴの夢」で構成している。物語として「やまなし」を読み味わうだけでなく、「イーハトーヴの夢」で読み取った作者の思いや願いと「やまなし」を関連付けて読み、主題をとらえさせたいと考えた。

「やまなし」は、比喩表現や擬声語・擬態語など、宮沢賢治の独特な表現が駆使された、象徴的で深い思想性をもつ作品である。文章中の豊かな表現の一つ一つとより丁寧に向き合い、豊かに想像を広げる学習をさせたい。連なった言葉がもつ響きやリズム、イメージを大切に読み味わわせたい。「五月」「十二月」の場面を精読するだけでなく、二枚の幻灯を対比させて読んだり、「かわせみ」と「やまなし」が象徴しているものについて考えたり、話し合ったりすることで、生と死についての作者の考え方や主題に気づかせたい。

「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界について深く理解している筆者が子どものために書いている賢治についての評伝である。この文章を読むことで、児童は、文学者・農業家・実業家であった宮沢賢治の生き方に触れることができる。この評伝を学習することで、「やまなし」を読むだけでは読み取れない主題に深く迫ることができると考えられる。また、広い知識と理想をもつ宮沢賢治の書いた他の作品への興味・関心を児童がもちたくなる教材である。
 - (2) 児童の実態

削除しています。

(3) 指導上の工夫について（研究テーマと関連して）

研究主題「伝え合い、高め合う児童の育成」に迫るために、次の2つの視点から支援を試みたい。

①自分の考えをもつための支援

- ・感想や分からないところを率直に述べたり書いたりする。
- ・作品との出会いを大切に、初発の感想を自由に書かせる。
- ・交互読み、気に入った文の暗唱などを取り入れ、十分に音読させる。
- ・情景を想像しやすい写真や実物を提示する。
- ・ノートに思いついたことを率直に書きこむ学習の場を設定する。

②自分の考えを発表し、全体で話し合うための支援

- ・児童が発表した思いや考えを提示している教材文に書き込んで、全体に示す。
- ・自分の考えと作者の考え、友達の考えを比べながら聞くことを指導する。
- ・児童の発言をつなげていき、それぞれの児童の考えを比べやすくする。
- ・自分の分かったことや話し合った後に考えが変容したことを自分の言葉でまとめる学習を授業の中で設定する。
- ・話し合うことの良さや喜びについて、振り返ることで確認する。

5 本時案 (第二次第4時)

目 標		やまなしの様子やかかにの兄弟の心情を想像しながら読み、「やまなし」に込められた作者の思いについて話し合うことができる。		
学習活動		教師の指導・支援	評価・視点	
め あ て を つ か む 自 分 の 考 え を も つ	1 課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習で読み取った「十二月」の谷川の様子やかかにの兄弟の様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬である。冷たい水の底。静かな夜で、月光が射している。 ・かにはあわを出して遊んでいる。弟が少し成長している。 ・やまなしが天井から落ちてきたとき、驚いて首をすくめた。 ・踊るようにして追いかけて「おいしそうだね。」と思った。 ○ 「十二月」のイメージを想像させることができるような絵を掲示しておく。 ○ 「やまなし」が落ちてきて、十二月の世界は変わったか、と問いかけ、めあてにつなげたい。 		
	2 考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交代読みなど、情景を想像できるよう工夫した音読をさせる。 ○ 「やまなし」で世界はどのように変えられたか、比喻や擬態語・擬声語などの叙述をもとにノートに自分の考えを書かせる。 ○ 考えが進まない児童には擬態語や比喻を声に出して読ませ、十二月の場面設定や幻灯である設定を振り返らせる。 ○ 自分なりの考えがもてるように、十分な時間をとり、叙述から見つけられるようにする。 		① 変化した情景を読み取ることができたか。(読む/ノート)
	3 話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアでお互いの考えを聞き合い交流することで、自分の意見に自信をもって述べたり書いたりしやすいようにする。 ○ 全体で話し合い、自分の考えと友達の考え比べながら聞かせることで、「やまなし」で変わった情景を読み取らせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ラムネのビンの月光が月光のにじになったから、明るくなった。 ・あたりはいいにおいでいっぱいになった。 ・おどるようにしてやまなしを追いかけているから、楽しくなった。 ・辺りはしんとしていたが水の音がサラサラ鳴った。 ○ 変化したイメージについても問うことで、冷たい十二月の世界がやまなしの出現で温かい世界に変化したことにも気付かせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほのおがゆらゆらと上がり金剛石の粉できらきらした感じがする。 ・やまなしが落ちてきて、情景の冷たい感じが温かくなったように感じる。 ○ 「やまなし」に込めた作者の思いについて、「五月」の「かわせみ」はどんなことを表していたか思い出させうえで話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かわせみは、他の命を奪うものだったが、やまなしは他の命を救ううれしいもの。 ・かわせみは死を連想させる怖いものだったが、やまなしは期待や希望を表している。 ・かわせみは生存競争はやむを得ないと思わせるが、やまなしは自然からの恵みを思わせる。 		② 読み取った自分の意見を発表することができたか。自分の考えと比べながら聞くことができたか。(話す・聞く/発言)
	4 本時のまとめをする。(次時、家庭学習へのつなぎ)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十二月の世界がやまなしによってどのように変えられたかと、作者がやまなしに込めた思いについて話し合った後の自分の考えを文章でノートに書かせる。 ○ 友達の意見を聞いたり、話し合ったりして自分の考えを深めて書いている児童のまとめを取り上げて発表することで、話し合うことの価値や喜びに気付かせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見を聞いて、さらに詳しい様子が想像できた。 ・自分の気づいていないところを友達に言われて気づくことができた。 		

6 単元構想

次	時	主な学習活動	児童の意識と思考のながれ	指導事項・留意点
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やまなし」を通読し、初発の感想をもつ。 ○ 難語句について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比喩表現・擬声語・擬態語が多いな。 ○ 比喩表現・擬声語・擬態語が表しているのはどんな情景なのか。 ○ 言葉の意味が分かると情景を想像できそうだけどよくわからないところがあるな。 ○ きれいな表現がいっぱいだな。 ○ クラムボンってなんだろうな。 ○ 作者は何が言いたいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想を自由に書かせ交流させる。 ○ 前書きと後書きの間に二枚の幻灯があるという構成に気づかせる。 ○ 情景を想像して読んだり、主題について考えながら読むことをおさえる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二枚の幻灯を簡単な言葉や図で表し、場面の様子をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 谷川の水の中で、かこの兄弟が水面を見上げているんだな。 ○ 水面のことを天井と行っているんだな。 ○ 同じ谷川の様子だけど、「五月」と「十二月」はずいぶん違って思えるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小さな谷川を水面と川底を描いた図にすることを通して情景をとらえられるようにする。 ○ 比喩表現や擬声語・擬態語などの効果を意識させながら読ませる。
二	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「五月」の谷川の様子を読む。 ○ 美しい情景や比喩と、「かこの兄弟」の様子を読む。 ○ クラムボンとは何かを予想し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初夏で昼間で太陽の光がきれいだ。 ○ 魚などの生き物たちが元気に活動する季節だ。 ○ かこの兄弟は、どんな景色を見ているのかな。 ○ かわせみが飛び込んできてかたちは怖がっていたな。 ○ 魚たちは、かわせみに殺されたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 谷川の情景描写や美しい比喩を丁寧に読み、想像させる。 ○ 初夏の生き物の躍動感あるイメージをつかませる。 ○ 魚の様子や「死んだ」「殺された」から、死についても考えさせる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 五月の世界が「かわせみ」でどう変わったかを読み取る。 ○ 「かわせみ」に込められた作者の思いを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「青光り」「コンパスのような」「黒くとがって」から、かこにとって怖いものなんだな。 ○ 「死んだ」「殺された」という表現から、死を思わせる。 ○ 明るい生き生きした谷川が怖い死の雰囲気になった。 ○ かわせみは命を奪うものにたとえられているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「かわせみ」の出現で谷川の情景がどう変化したかを話し合うことで考えさせる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「十二月」の谷川の様子を読む。 ○ 美しい情景や比喩と、「かこの兄弟」の様子を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 冬で水が冷たいけれど、月の光が差し込んできれいだ。 ○ かこ以外に他に生き物が出てこないからさみしい。 ○ かこの話している様子は少し成長した感じがするな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比喩表現や情景を表す言葉に着目し、十二月の谷川の情景をとらえさせる。 ○ 五月と比べて静のイメージをつかませる。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十二月の世界が「やまなし」でどう変わったかを読み取る。 ○ 「やまなし」に込められた作者の思いを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 辺りはいいにおいでいっぱいになったよ。 ○ 辺りはしんとしていたけど水の音がサラサラ鳴っている。 ○ やまなしを自然からの恵み、命を奪うのではなく与えるものにたと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やまなし」の出現で谷川の情景がどう変化したかを話し合うことで考えさせる。 ○ かわせみの出現と比べて考えさせることで、作者の思いをとらえやすくさせる。

	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「五月」と「十二月」の違いについて、感じたことを交流する。 ○ 対比されている明・暗のイメージから、作者のメッセージを考える。 ○ 題について考え、話し合う。 	<p>えているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「五月」は明るく、生き物の活動する季節だが、「かわせみ」のように他の生き物を殺す怖い世界を表している。 ○ 「十二月」は冷たく静かな様子だが、実りの豊かな世界を表している。 ○ いろいろな対比がこの作品には込められているんだな。 ○ 「やまなし」は、他の生き物のためになっている。 ○ 作者にとっては「やまなし」が大切なものなのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二枚の幻灯に共通しているもの、対比して配置されているものなどから、二枚のとらえ方を考えさせる。 ○ 「かわせみ」と「やまなし」を比べることで、なぜ「やまなし」という題かを考えさせる。 ○ 話し合いの後に、作者の自然の中の命に対する考え方に興味をもたせ、資料「イーハトーヴの夢」につなげる。
三	1～2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料「イーハトーヴの夢」を読む。 ○ 作者の生涯や、ものの考え方について話し合う。 ○ 「やまなし」で読み取ったことと結び付けて、宮沢賢治の命に対する考え方を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮沢賢治は物語にすごく多くの思いを詰め込んでいるな。 ○ 賢治は、生き物や自然と共に暮らしている人だったんだ。 ○ 妹を亡くしてしまったことが作品にも表されているんだな。 ○ 人に尽くすことや人のために生きることが何より大切だと考えていたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「イーハトーヴの夢」から、宮沢賢治の生涯についてつかみ、感想を交流させる。 ○ 賢治の生き方、ものの考え方について話し合い、自分なりの感想をもたせる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やまなし」の読み取りと、資料「イーハトーヴの夢」で得た情報を結び、自分なりの感想をもつ。 ○ 「やまなし」の主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 賢治は、「十二月」の「やまなし」のように、自分は犠牲になっても他の命を救うような生き方をしたいと考えていたのだな。 ○ 「やまなし」には賢治の理想とする生き方が込められているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮沢賢治の理想や考え方から、自然の中の命について考え、「やまなし」の表現や題名と結んで話し合わせる。 ○ 他の作品を読む時間は、家庭学習などの時間も活用して補いたい。